

小学六年

国語

解答と解説

	2				1
問四	問一	問九	問七	問五	問一
イ	ウ	中	ウ	ア	イ
40	34	-----	(完答)	28	21
問五	問二	身	エ	問六	問二
エ	1	が	30	大	ウ
41	35	-----	問八	き	問三
問六	エ	か	人	な	i
人	2	ら	生	会	ウ
問	ウ	っ	は	社	ii
は、	3	ぽ	何	で	23
-----	ア	な	31	究	ア
問三	37	子	-----	者	iii
1	個人主義的	ど	-----	だ	25
-----	38	も	-----	っ	問四
問七	工	問十	-----	た	③
ア	39	ウ	-----	29	ア
42	-----	32	-----	26	⑦
43	-----	33	-----	27	工

(配点)

{ ① (問三) 各2点、(問四) 各3点、他各5点 }
 { ② (問二) 各2点、(問八) 7点、他各5点 } 計150点
 { ③④⑤ 各2点 }

		5		4		3				問八				
⑥	①	①	①	①	①	問九					に	し	取	一
恩賞	豊富	民意	ど	ウ	ろ	48	な	て	り	人				
⑦	②	②	②	問十	ろ		生	組	ひ					
背筋	傷害	同意	か	イ	ぶ	49	う	き	む	と				
⑧	③	③	③	げ	た		と	ら	た	り				
銀貨	粉末	容易	さ	④	じ	す	れ	め	が					
⑨	④	④	④	た	⑤	る	る	の	自					
訳	快拳	作用	さ	⑤	⑤	こ	社	知	分					
⑩	⑤	⑤	じ	⑤	⑤	と	会	恵	の					
便	有毒	感心	そ	⑤	⑤	。	を	を	足					
			こ	⑤	⑤		つ	出	元					
				⑤	⑤		く	し	の					
				⑤	⑤		る	、	問					
				⑤	⑤		主	安	題					
				⑤	⑤		体	心	に					

44
45
46
47

【解説】

1 草野たきの『マイブラザー』から出題しました。

希望の私立中学に進学して勉学や部活に励む生活を思い描いていた海斗でしたが、父が急に仕事をやめてパン屋になるという夢を追いかけたことで計画がくずれ、中学二年生になった今では、五歳の弟、総也の世話に明け暮れる生活を送っています。本文は、父にパン屋を目指した真意を聞くために、海斗が友人の健吾と倫太郎をさそって父の修業先にやってきた場面です。

問一 B1 理由 比較

線①の一つ前の段落に「二人の前で、父さんのパンなど食べたくない、わがままな姿をさらすわけにはいかず」とあります。もともと父のパン職人への転身を快く思っていないこともあって、パン自体はおいしいのにそう感じている自分の姿を父や友人二人の前で素直に表現したくないのです。ア「安心した」、ウ「次のパンを食べることばかり考えていた」、エ「食べる速さだけは負けたくない」がそれぞれ誤っています。

問二 B1 理由 比較

線②の三行後の倫太郎の発言「おまえ、ここになんて来たかと思ってるんだよ」が大きなヒントになります。三人がここへ来た一番の目的は、海斗が父にパン職人になった理由をきちんと説明してもらおうことでした。自分たちがいるとじっくり話し合うのは難しいと考え、倫太郎は健吾をうながして席はずそうとしているのです。ア「会話を楽しめない」、

イ「どうやって作っているのかを健吾と確かめに行きたかった」、エ「海斗には聞かれたくない話をしたい」がそれぞれ誤っています。

問三 A2 関係づけ 知識

- それぞれ次のことばが入ります。
- i 父がなにもかもリセットしたくなったときに会った、会社の取引先の人偶然修業先のパン屋さんがある千葉県の人だったので。したがって、「たまたま」が入ります。
 - ii 毎日なんのために仕事をしているのかわからなくなった父にとつて、その時食べたパンの味はホッとするような、心にひびく味だったので。したがって、「しみじみ」が入ります。
 - iii 直後の「帰るわ……」とのつながりを考えて「そろそろ」が入ります。

問四 A1 知識

③「物心ついた」はある程度成長して、物事のいろいろな細かい事情が理解できるようになる、という意味です。本音と建前を使い分けたり、人情を理解できるようになったりすることを指します。

⑦「大黒柱」は建物の中央にあり、家全体を支える柱のことです。転じて、集団の中心となって支える人物のことを指します。

問五 B1 関係づけ 比較

一つ目の④からは、毎日同じように朝起きてパンを焼

き、人に食べてもらおう生活に父が憧れたことをいぶかしく思う海斗の様子が読み取れます。また、二つ目の④からは、父がそういう生活に満足できるかどうかを少し疑ってかかる海斗の様子もうかがえます。以上のことから、アの「地味」が入ります。

問六 **B1** 具体化 **関係つけ**

海斗は今の父の姿を、ずっと自分が尊敬してきた父さんとは違うと感じています。したがって、以前の父がどのような様子であったかがわかる表現を探せばよいこととなります。それをふまえて本文を読み進めていくと、——線⑩の十二行前に「大きな会社で研究者だったその姿は、もう過去のものなのだ」という表現が見つかります。

問七 **B2** 具体化 **比較**

「サイテーだな」の後に、「父さんを責めるように言いながら、その言葉が自分にもはねかえってくる」とあることに注目しましょう。これをふまえると、この言葉は①父さんを責める気持ち、②自分をサイテーだと思う気持ち、の二つがこめられた発言だということになります。アは祖父、オは母への気持ちになっており、ふさわしくありません。イは、父が自分の決断を「ダメ」「非常識」と語っていることから「家族のことなど忘れてパン作りに熱中している」とはいえません。

問八 **B1** 具体化 **関係つけ**

父は自分のやりたいことを貫こうとする自分を「母さんに

離婚されて当然」と表現しています。ただし、直後で「だけども母さん、ダメだって言うんだ」と言っていることから、離婚を申し入れたものの母には拒否されたことがわかります。その母は、「人生は何歳からでもやりなおせるってところを、私と子どもたちに見せてほしい」と父に語っています。これをクリアすることが、父が家族として受け入れてもらうために必要な条件です。

問九 **B1** 具体化

これまでの父は、自分の父（海斗の祖父）が喜ぶかどうかで人生を決めてきました。それを変えたいと思ったことが会社をやめてパン職人の修業をすることにつながったのです。したがって、父さん自身が祖父の言いなりになっていた自分について語っている部分から、たとえの表現を探すこととなります。——線⑥九行前に「中身がからっぽな子ども」という表現が見つかります。「人生を選んでこなかった」「おじいちゃんの言いなり」も十一字ですが、これらはたとえではないので解答にはなりません。

問十 **B1** 理由 **比較**

変わろうとする父を受け入れる覚悟は持てたけれども、それでもまだどこか思いきれないところのある海斗の様子を読み取りましょう。ア「納得できないと感じている」、イ「友人二人の前でそれを見せるのは照れくさい」、エ「自分も同じように変わろうと決意している」がそれぞれ誤っています。

② 沙見稔幸の『教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと』から出題しました。

「学び」とは何か、またそれを追求するために学校の教育はどうあるべきかということ論じた文章です。

問一 B1 具体化 比較

第一段落で、筆者はこれまでの学校教育がおしすすめてきた「学び」は、人間に必要な知性とはやや異なっていたと考えていると明かしています。したがって、学校で身につける「学力」に関する内容が書かれた選択肢ア、イは当てはまらないこととなります。またエについても、——線②以降で否定している内容です。

問二 A2 関係づけ 知識

前後関係に着目し、それぞれのつながり方をおさえながら考えましょう。

1 直前の段落には、学校で身につける「学力」の多くは、子どもたちが社会に出て行くときの評価を上げるためのものであることが説明されています。また、《1》直後では、名の通った学校へ進学することや大きな会社に入ることなどを目的として偏差値を上げることが学力形成の実際的な目標になってしまったことが指摘されています。同じ内容を別の言い方で言っていることから、「つまり」が入ります。

2 直前には、「なぜ生きているのか」の答えなど見つかるはずがないという内容が書かれています。これに対して直

後では、生きているうちに「生きている方がいいな」という感覚だけは身につけたいという内容が書かれています。「生きる意味を見つけること」に対して正反対に近い内容が書かれていることから、「しかし」が入ります。

3 直前には、外国だけでなく日本でも子どもの貧困や格差

が広がっていることが書かれ、直後にはその貧困や格差に拍車がかかり、非正規職員の失職や家庭内のDVで自殺する女性が増えていることが指摘されています。日々の生活で苦しむ人の例が並べられている形なので、「また」が入ります。

問三

1 B1 具体化 関係づけ

筆者はこの文章で、一貫してこれまでの教育に否定的な立場を取っています。特に、個性的な人格形成につながるものではなく、試験での点数を上げるために「正解」を多く覚え、速く導き出せるようにしてきたことは筆者によって厳しく指摘されています。その様子は、——線⑤直後に「戦後教育の目標は、いつの間にか個人主義的なものになっていったと思います」とまとめられています。

2 B1 具体化 比較

本文後半では自分だけが幸せになるのではなく、社会全体で幸せになれる方法を考えるべきだということが述べられています。これと合致する選択肢を選びましょう。ア「得意分野で社会の役に立てるようにする」、イ「自分自身

の能力をひたすら高めていく」、ウ「自分より他人の幸せを考え」がそれぞれ誤っています。

問四 B1 関係つけ 比較

③ 直後の「も」に注目しましょう。この「も」は、いろいろな経験をしながらやりたい仕事を見つけていくということを具体的に示した例の中で、自分のやりたいことを完全な形で実現することが難しい場合も多く、なるべく自分が面白いと思える仕事を選んでいくという内容と並列されています。したがって、いろいろな経験の中でも自分にとってマイナスだと感じられつつ、実際に仕事を選ぶことにつながる内容が入ることになります。したがって、イが正解となります。アは仕事を選ぶことにつながっておらず、ウ・エは仕事を選ぶうえでプラスの内容になっています。

問五 B1 理由 比較

線④から——線⑤の間で、筆者による理由の考察が展開されます。ここでは、困っている人に本能的に手を差し伸べたくなる理由を「共感能力」という言葉で説明しています。そして、共感能力が発揮されなくなる、すなわち自分が幸せであれば他の人はどうでもかまわないという気持ちになる理由として、自分自身が大変な状況にあることや、激しい競争のなかで勝ち抜いた人だけが評価され、負けた人が低く評価される環境にあることが挙げられています。以上のことから、エが正解となります。イやウのような一見それらしい選択肢に飛びつかないよう、本文との照らし合わせをしっかり行いましょう。

問六 B1 置換

同じ内容が書かれた文を探す問題です。傍線部の要素をしっかり吟味し、各要素が過不足なく反映された一文を探すように心がけましょう。より具体的には、①「自分の自己実現」と「社会の自己実現」の関係について述べている、②両者が切り離せず、深いところでつながっているという内容が書かれている、という二点を同時にふくむ一文を探すこととなります。少し長めですが、——線④の六行前、「人間は、自分だけが幸せになるのではなく、みんなが上手に支え合って、みんなが生き生きとして幸せになっていけるような社会を目指す努力をしない限り、結局、自分も幸せになれないのです」が過不足なく同じ要素を示しています。

問七 B1 関係つけ 比較

⑥ 直前の「このような」という指示語に注目し、前の段落を確認します。世界全体の飢餓人口の話やコロナウイルスのパンデミックなど、困っている人の例が具体的に挙げられています。したがって、アの「具体的」が入ります。

問八 B2 具体・抽象化 推論

筆者がどのようなことをすればよいと主張しているかをまとめる問題です。最後の段落で筆者が問題への対応に必要なことを述べています。段落四行目「必要になるのです」、七行目「なればいいのです」に注目し、「一人ひとりが自分の足元の問題に取り組むための知恵」を出すこと、「安心して生きられる社会をつくる」「主体に」なることの二つを盛りこんでまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問九

B1 関係づけ

ぬけている文をもとにもどす問題です。ぬけている文の前後にどのような内容があるかを考えてから検討しましょう。答えが決まったら、その場所にぬけている文をもどして読み、意味が通ることを確認しておきましょう。

ぬけている文を読むときに指示語や接続語に注目すると、前後にどのような話題が書かれているかを予測するうえで大変役に立ちます。情報が不十分な状態で考え始めないように、しっかりとぬけている文から情報を引き出しましょう。

今回の問題では、「そんなこと」という指示語の内容としてふさわしいものが「ア」「エ」直前のどの内容と対応するかを確認しておきましょう。

問十

B1 抽象化

本文との内容が合っているかどうかを判断する問題では、本文の内容を選択肢の内容と照らし合わせて正誤を判断するようにしましょう。「そのような内容が書かれていた気がする」程度で判断しないように、めんどりでも本文にもどって確認することが大切です。ア「個人的な人格形成には全然役立っていない」、ウ「いずれ必ず役に立つ時がくる」、エ「共感能力をまったくもたない人が増えている」がそれぞれ誤っています。また、イの内容は——線⑤直後の内容と重なって

います。

この問題では「全然くはない」「確実に」「必ず」「まったくない」など、程度のきつい表現がすべての選択肢に用いられています。このような表現が選択肢中にある場合、すぐに消してしまわないことが大切です。本文と照らし合わせてそのようなきつい表現をすることが本当にふさわしいかどうかを確認しましょう。

3 **A1** 知識

慣用句の問題です。慣用句とは、二つ以上の言葉が常に一定の結びつき方をすることで特定の意味を持つようになった表現のことです。元の言葉の文字通りの意味からは離れた意味を持つ場合があるので注意しましょう。

4 **A1** 知識

類義語の問題です。一部同じ字をふくむものが多いですが、今回は二字とも異なっている形のものを出題しました。熟語の単位ではなく、実際の文での使われ方とからめて覚えておきましょう。